

さいたま市長 6月定例記者会見

平成22年6月30日(水曜日)

午後1時30分開会

○ 進 行 記者クラブの皆様、定刻となりましたので、市長記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブ幹事社のテレビ埼玉さん、進行のほうをよろしくお願いいたします。

○テレビ埼玉 6月の幹事社を務めますテレビ埼玉と申します。よろしく申し上げます。  
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長からご説明申し上げます。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。さいたま市長の清水勇人でございます。

まず、本題に入る前にですね、皆さんも見ているんじゃないかと思いますが、私もきのうのサッカーの試合を見ておりまして、最後PK戦が終わるまでしっかりと見ておりましたけれども、そのワールドカップサッカー大会と、その試合の感想を少し申し上げたいというふうに思っております。

2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会におきまして、日本代表がまさに世界の強豪と対等な、また互角の戦いを見せてくれました。岡田監督が掲げましたベスト4入りをするということまではかないませんでしたけれども、この南アフリカ、アウェーという場所ですね、ベスト16に入ったということは大変価値があるものであるというふうに思っています。

また、さいたま市も今スポーツの力を感じ、またスポーツの力を信じて、スポーツをテーマとしたまちづくりというものをやっているところでありますけれども、まさに今回のワールドカップサッカー大会はですね、大変改めてスポーツの力の持つ大きさというものを感じたところでもあります。さいたま市民、そして日本国民にですね、大変大きな感動と、夢と、勇気を与えてくれました。岡田監督、そして選手の皆さんに対してですね、改めてありがとうという言葉を送りたいというふうに思っております。ぜひ胸を張って帰っていただきたいというふうに思います。

特に今大会ではですね、本市にも大変ゆかりのあります、本市をホームタウンとする浦和レッズの阿部勇樹選手、そして中央区出身で本市の観光大使を務めております川島選手もですね、大活躍をしてくれました。本当に今回日本のチーム、大変守備、守りがよかったわけですね。ゴールも2ゴールだったですけど、そのうち1つはPKということで、実質ワンゴールということであるかと思えますけども、その日本のゴールを本当にしっかり、また体を張って守り抜いてくれました。特に川島選手、ピッチをたたいてまでですね、悔しがる姿だとか、あるいはまさに体をですね、張ってボールに食らいついていくというですね、まさにそのファイトは私自身も大変感動もしたし、すばらしいプレーだなというふうに思いました。

ぜひですね、阿部選手、川島選手、両選手におきましてですね、これからも、このワールドカップでの経験をですね、大いに生かして、さらに大きく飛躍をしていただきたいというふうに思っています。

それから、パラグアイ戦の感想を2つだけ申し上げたいと思っておりますが、1つはちょうどPK戦が、PKを3人目の、3人目だったですよ、駒野選手が外したときですね、その外した後、またみんなの円陣の中に入って、一緒に肩を組んでやっていったという、その姿を見て大変、それまでは私も日韓戦の壮行試合を見たんですけども、同じチームかなと思うぐらいですね、非常にチームワークがよくとれていて、まさに1つにまとまって、ワールドカップに入って大きく成長したなという感じをしましたし、そのチームワークの大切さというものを改めて感じました。

また、本田選手の記者会見、これもすばらしいなと思いました。応援をしてくれた皆さん、そして批判をしてくれた皆さん、本当にありがとうございましたという、その言葉にですね、私もすばらしいなと思ひまして、これが私自身感動したことでございまして、ちょっと前置きが大変長くなりましたので、これ以上しゃべると30分ぐらい一人でしゃべってしまいそうですので、本題に入っていきたいと思ひます。

### **市長発表**

#### **議題：さいたま市の夏のイベントについて**

まず、きょうの議題は1件でございます。

さいたま市の夏のイベントについて説明をさせていただきたいと思えます。明日から7月ということで、今年も夏の風物詩として市民の皆様へ愛され、そして親しまれてきました夏まつりのシーズンということになります。

一番最初にスタートするのが、ここに書いてありますけども、「与野夏祭り」でございます。7月の17日、18日という両日にわたりまして開催をされます。江戸時代の宝永年間からスタートしたと言われておりますけども、この写真にもありますようにですね、大変激しいというかですね、元気いっぱいのおみこしが繰り広げられる、そんなお祭りですので、ぜひご覧をいただきたいと思えます。

次の週にはですね、「浦和まつり」というのが行われます。「音楽パレード」、それから「浦和おどり」、そして「みこしパレード」、さらには「浦和よさこい」ということでお祭りが繰り広げられます。中山道いっぱいに大変にぎわいを見せるお祭りですので、ぜひご覧をいただきたいと思えます。

次は、大宮地区でございますけども、まずは7月の18日に「中山道みやはらまつり」というのが行われます。これは、よさこいパラパラであるとか、民謡流しといったものが有名であります。そして、7月の31日、1日、これはですね、伝統のおみこしとですね、サンバというちょっと奇妙なというかですね、アンバランスな取り合わせでありますけれども、このサンバとおみこしが競演する「スパークカーニバル」というものが行われます。

また、その翌日には大宮駅の東口、この中山道を中心に繰り広げられます「中山道まつり」というものが行われます。大宮駅東口ですね、まさにロータリーのところがおみこしでいっぱいになると、大変壮観なお祭りになります。

また、その後にはですね、JRの日進駅を中心とした商店街周辺で繰り広げられます、「大宮日進七夕まつり」というのが行われます。さらには、やはり同じ日でもありますけども、東大宮駅の周辺でありますけども、「東大宮サマーフェスティバル」というのが行われます。ここには、地元の伝統文化でもあります砂の万灯というのが掲示されまして、これはそこに写真が載っているのがそれですけども、大変ユニークなものでございます。

さらに、8月28日には「指扇まつり」というのが開催されますが、ここでは伝統無形民俗文化財にも指定されております餅つき踊りというのがここで繰り広げられることになっております。さらには、岩槻のは、ちょっとポスターまだございませんけれども、8月22日にジャンボひな壇に王朝絵巻が繰り広げられます「岩槻まつり」というのが行われます。これも大変ですね、ちょうど区役所の広場のところにですね、7段飾りになるんでしょうかね、和服を着てひな人形に扮した方々がそこに並んで展開されるということになります。これがお祭りであります。

続いて、花火大会であります。今年は3会場で、例年どおり3会場で行わせていただきます。7月30日、8月14日、8月21日ということでございまして、大宮、そして岩槻については、これまでと同様にですね、大宮につきましては大和田公園周辺で行われます。また、岩槻は岩槻文化公園で行われます。ただ、この浦和地区のですね、会場につきましては昨年は大崎公園ということでありましたけれども、今年は来る方の利便性の向上あるいは交通規制の安全性の確保ということからですね、東浦和のですね、大間木公園周辺で行わせていただくようになっておりますので、十分ご注意をいただきたいというふうに思っております。

この花火大会に当たりましては、早打ち花火、スターマインというものが、大きな花火が繰り広げられる一方で、個人のメッセージ花火というものも受け付けさせていただいております。例えば「結婚おめでとう、何々さん」とかですね、いろんな形でメッセージを読み上げながら花火が打ち上げられるということですので、ぜひ多くの皆さんにもお申し込みをいただきたいというふうに思います。

夏まつり、あるいは花火大会につきましてはですね、交通規制の状況あるいは当日の開催につきましては、インターネット等でご覧いただくことができます。また、観光コンベンションビューローのホームページなどでご覧いただくことができますので、雨天のときにはそちらをぜひご確認をいただきたいというふうに思っております。

市民の皆さんの交流と、そして絆を深めていただいて、心に残る、また思い出に残るすばらしい夏になっていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

#### 関連質問

- テレビ埼玉      ありがとうございました。
- 市長からの説明について、まず幹事社から1点質問させていただきます。
- 夏のイベント、お祭りたくさんありますけれども、最も集客を想定しているお祭りはどれになるのでしょうか。
- 市 長      中山道まつりですかね。ちょっと一応確認して。
- 事務局      済みません、お待ちください。
- テレビ埼玉      そのほか質問について各社さんありましたら、お願いします。
- 時事通信      済みません、時事通信です。
- 議題ではなくて、初めに市長がおっしゃられたワールドカップの関係なんですけども、阿部選手とか川島選手にですね、表彰とか、そういったようなものをされるご予定はありますでしょうか。
- 市 長      そうですね、今回大変大活躍をしていただいたので、検討していきたいと思っています。
- 事務局      済みません。先ほどのご質問にお答えしてよろしいでしょうか。観光政策課です。
- 一番大きい集客を見込むお祭りは、昨年度の実績ですと、大宮で行われるスパークカーニバル、これが27万人。そして、中山道まつりも同じく27万人でございます。ちなみに、この夏祭りに関しまして、去年は合計で139万9,000人の来場がございました。また、花火につきましても、3会場合わせまして28万人の来場をいただいております。
- 以上です。

#### 幹事社質問

敬老祝金、学校警備員について

岩槻区役所の移転について

行財政改革公開審議について

さいたま新都心8-1A街区について

- テレビ埼玉      ありがとうございました。次に、記者クラブからの質問を一括してさせていただきますので、よろしくをお願いします。

まず、1点目が、敬老祝金、学校警備員について、今後の考え方は。

2点目が、岩槻区役所移転に関して今後の動きは。また、どう区民の理解を得ていくかという点について。

3点目が、行財政改革公開審議を実施してみてもの手ごたえは。

最後4点目が、さいたま新都心8-1A街区の方針が決まる期限が来月に迫っていますが、現時点での進捗状況はという質問です。

よろしくをお願いします。

○ 市長 それでは、まず「敬老祝金、学校警備員についての今後の考え方は」ということでお答えを申し上げたいと思います。

まず、敬老祝金についてであります。対象年令の引き上げと支給金額の見直しを提案をさせていただきました。「さいたま市敬老祝金支給条例の一部を改正する条例」につきましては、大変残念ではありますが、ご理解が得られず、否決となりました。

私は、平成22年度を行財政改革元年と位置づけて、敬老祝金についても現金給付からサービス給付への方針によって、市民を初めとした各方面の理解を得られるよう努めてまいりました。

これは、今後急速に高齢化が進んでいく本市におきまして、限られた予算を有効に活用していこうということで進めさせていただいたものであります。これから私は、この高齢者施策については、行政がやるべきことは2つだと思っております。1つは、健康で長生きをするためのサービスを充実をさせていくこと、これが1つ。もう一つは、いざというときの医療あるいは福祉というものについては、しっかりと充実を図っていく。この2つが行政の役割であるというふうに考えておまして、今回のこの敬老祝金については88歳からということで、給付年齢が少し先にずれ込んでいくわけではありますが、その分については、1つは地域包括支援センターをですね、今ある25カ所を26カ所に増やして、それをさらに職員を1人ずつ増やすことによって、この地域包括支援センター、これが年中無休化ができる。なぜこれをやるかということですね、今介護殺人、老老介護による介護殺人というのが大変増えてきているんです。これを何とか私たちとしては、そういった状況を防いでいかなければいけない、介護に負担のある方々を少しでも軽減化をしていく、これが行政として大変大き

な役割であるという方針のもとに、そういったことをやらせていただいたり、あるいは65歳以上のひとり暮らしの方々に週4回配食サービスをやっておりますけども、これを週5回にさせていただいたり、さらにはシルバー元気応援ショップという制度を新たに設けまして、その65歳以上に今配付をしておりますシルバーカードをお見せしますと、さまざまな割引をしていただいたり、あるいは蓄えをしていただいたり、いろんな特典を与えていただくことによって、高齢者の皆さんの、いわゆる買い物をしやすい環境をつくっていく、あるいは生きがいづくりを促進をさせていくという視点で今回提案させていただいたわけでありまして、今後さらにですね、こういった形で市民の満足度を高めていくとともにですね、議案、条例の改正そのものは可決はいただけませんでしたけれども、今回補正予算の附帯決議で現金給付からサービス給付への方向性については理解をいただいているということで附帯決議をつけていただいておりますので、そういう意味では議会あるいは市民の皆様ともよくコミュニケーションをとりながら、こういった考え方、そして今後のですね、高齢者施策への対応なども十分にご理解をいただきながら、さらに皆さんにご理解を進めていくように最大限の努力を図っていきたいというふうに思っています。

続いて、学校警備員についてでありますけれども、当初2月議会におきまして半日は防犯ボランティアの皆様をお願いできないかというところでご提案をさせていただきましたが、準備体制が十分にとれないというような状況もございましたので、まずは1学期間は従来どおりの体制で行うということでさせていただきました。その後さらなる継続を求める請願というのが出てきて、採択をされたというところであります。

私としてはですね、これからの学校の防犯体制を支えていくのは地域の力であると。警備員の方のこれまでの役割は、もちろん大変大きかったと思いますけれども、これからは子供たちの本当に安全を守るためには、やはり大人が本気になっていく。保護者の皆さん、地域、そして学校が一体となって、その防犯体制をつくっていくということが私は必要だと思っております。

学校警備員についてはですね、今後も配置を継続する一方で、2学期からですね、できるところから半日警備の体制に移行させていただこうと。

学校安全ネットワーク推進モデル事業ということで、できるところから教育委員会が委嘱をし、支援をしていこうという形で進めさせていただく予定になっています。

そして、23年当初ぐらいからはですね、学校警備員の半日体制に移行することを目標にして、学校とPTAが協力して準備を進めていただくとともに、学校安全ネットワーク推進協議会を通じまして、教育委員会、PTA、それから小学校の校長会などを中心として、また関係団体の皆様方にも協力をいただき、連携を図りながら、子供たちの安全な体制、学校安全ネットワークというものを構築していく、一層充実を図っていくということでやっていきたいというふうに思っております。

続きまして、岩槻区役所についてでございます。岩槻の移転の問題ですね。岩槻駅東口に立地する再開発ビルワッツにつきましては、岩槻都市振興の経営再建に係るRCC企業再生スキームに基づく再生計画によりまして、3、4階フロアへの公共施設の導入ということが前提となっております。このため、市で検討をした結果、耐震性あるいは費用対効果、あるいは利便性及びまちづくりの観点などを踏まえまして、総合的な見地から区役所を含めた公共施設の導入の推進を図るとのこととさせていただいたところであります。

6月定例議会におきまして提出をしました関連補正予算議案につきましては、市議会から「区民の皆様の見意見集約と合意形成」、それから「庁舎及び敷地の利活用に係る区民等の検討組織の設置」、「まちづくりマスタープランの作成」等の附帯決議をいただきました。今後につきましては、これらを十分に踏まえまして、適切に対応してまいりたいと考えております。

まず、7月中には自治会や経済団体のほか行政と関係する団体などを通じまして、岩槻区民の皆様に対しまして、さまざまな機会を活用して、これまでの経緯を踏まえて、区役所移転等に関する説明会を行ってまいりたいと思います。また、移転後の敷地の利活用につきましても、区民の各界の代表で構成する検討組織を早急に設置をして、庁内に組織されている検討委員会と調整を図りながら検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

また、なお並行して議決をいただきました補正予算に基づきまして、移



転施設の実施設計にも入っていこうというふうにも考えております。実施設計後に改修工事に取りかかり、平成23年度中に移転できるように取り組んでまいりたいと思っております。

特に区民の皆様理解を得ていくということにつきましては、この公共施設移転が必要となった背景、それから移転施設に係る検討の経過、移転施設の基本方針、導入施設及び規模、さらには移転後の敷地利用検討方針などについて、できるだけ丁寧に説明をしてまいりたい。そして、さまざまな機会、そして団体を通じまして、市民の皆様にご理解をいただけるように最大限の努力をしていきたいというふうに思っております。

続きまして、行財政改革公開審議についてのご質問でございますけども、去る6月26日から28日の3日間にわたりまして、行財政改革公開審議を実施いたしました。この公開審議は、行財政改革の理念であります見せる改革を新行財政改革推進プランの策定過程で具現化するために実施をしたものであります。事前は無作為で抽出をしまして1,000人の方々から参加を希望していただいた延べ124人の市民委員の皆様方に、事業所管部局と行革本部の議論を傍聴していただき、事業の見直しの方向性について評価をいただきました。また、3日間で196人の一般傍聴者の方々にもご来場をいただき、アンケートといった形で意見をちょうだいすることができたところであります。

私も直接傍聴させていただきましたが、市民の皆様からは、本市が実施する事業について、そもそも市が行う必要があるのか、また時代の流れの中で役割を終えたのではといった大変厳しい、また率直な評価をいただく一方で、市政が大変身近に感じられた、あるいは予算の使い道がよく理解できたというようなご意見、また生のやりとりが聞けて大変参考になったといった貴重なご意見をいただくこともできました。

ご質問の手ごたえでございますが、今申し上げましたように一般的には無作為抽出による参加者を募った場合、抽出した数の数%ぐらいの方々の参加というふうに思われておりましたけれども、本市におきましては延べ124人の市民委員の皆さんに参加をしていただくことができました。また、傍聴者の数についても196人と多くの市民の皆様に関心を持っていただいたと感じたところであります。いわゆる事業仕分けというものとは

違うわけでありませけれども、これまで内部で行われてきました改革の議論の過程をオープンにするとともに、無作為抽出の市民の皆様にご参加をいただき、そして評価、ご意見をいただいたことは、職員にとっても意識改革をする、そのきっかけになったのではないかというふうに思っています。

また、何よりも市民の皆様と市政情報の共有が図られたということは、大変大きな成果であったと感じております。初めての取り組みで、まだ手探りの部分もございましたけれども、一定の成果を得ることができたのではないかというふうに考えています。

市民委員の皆様からいただいた貴重なご意見につきましては、来月7月31日、土曜日に開催をいたします第2回目の行財政公開審議におきまして、事業所管部局によって作成をする見直し案の参考とさせていただきますとともに、その見直し内容につきましても、いま一度市民委員の皆様にご報告をさせていただく予定になっております。その後有識者会議あるいはパブリックコメント等を経た上で、行財政改革推進会議で決定をさせていただき、新行財政改革推進プランに掲載し、その進行管理を行ってまいりたいというふうに考えております。

今後につきましても、市民の皆様からお預かりをした税金を一円たりとも無駄にしない徹底した行財政改革を進め、常に費用対効果、コストや時間を意識し、少ない予算で大きな効果を上げることができる、そうした生産性の高い都市経営を実現をするため、取り組んでいきたいというふうに思っております。

そして、最後に、さいたま新都心8-1A街区の進捗状況ということでありますけれども、当街区整備事業につきましては、今、主催者3者、そして民間事業者の間で、7月25日までということで協議期間を設定をし、あらゆる角度で協議・検討を行っているところであります。

現在7月25日までの協議期間におきまして協議・調整を鋭意進めている段階でございますが、詳細につきましてはまだお答えできる段階ではございません。主催者、民間事業者の間で協議が整った段階でご報告を申し上げたいというふうに思っております。

以上でございます。

## 関連質問

- テレビ埼玉      ありがとうございます。  
代表質問の説明に関して質問がある方は質問してください。
- 埼玉新聞      埼玉新聞です。  
敬老祝金の関係なんですけれども、なぜ今回議会の理解を得られなかったのでしょうか。
- 市 長      いろんな要因はあるかと思いますが、そうですね、1つは市民の皆さんにですね、今回アンケート調査をやらせていただきましたが、自治会、民生委員、児童委員の皆さん、そして老人クラブ、それからシニアユニバーシティといった皆様方にアンケート調査をさせていただきましたら、65%ぐらいは賛同できる、やや賛同できるというようなお答えをいただきましたけれども、まだまだやはり十分にですね、市民の皆様を理解と、また説明がまだ十分でなかったといった面もあったかと思います。今後さらにですね、市民の皆様にもご理解いただいて、方向性についてはですね、この方向性でしっかりとご理解をいただき、やってまいりたいというふうに思っています。
- 埼玉新聞      方向性は理解を得られたということですが、でも現実問題として追加の補正予算で2億7,700万円をさらにのせることになったわけで、65%の市民が改正に賛成というアンケート調査を踏まえながら、2億7,700万円もの追加補正を組まなくちゃいけなかったというのは、これはもう少し議会と妥協することはできなかったのでしょうか。
- 市 長      そうですね、私たちもそれなりに議会の皆さんともですね、最終的にどいう案を6月定例議会です、否決をされた後出すかということで、議論、調整も進めさせていただいてきたわけでありまして、私たちとしては段階的な導入も含めていろんな形でご提案もさせていただきましたけれども、最終的にですね、現時点では、やはり議会の皆さんにはちょっとお受け入れをすることが難しいというご判断でございましたので、ちょうどもう9月にはですね、敬老会というものがスタートするというような状況もありましたので、私たちとしては現状のものを出さざるを得なかったという部分がございます。  
ただ、その過程でいろんな会派の皆様、議員の皆さんとお話をさせてい

ただきました中でね、これからのいろいろ財政状況も含めて考えていったときに、そういった方向性に転換をしていくことについては、これは方向性としては間違っていないんじゃないかということでご理解をいただけたというふうに思っておりますので、わずかでありますけども、一步は前進できたというふうに私自身思っていますので、これからまたさらにですね、ご理解をしていただけるように努力をしていきたいと思えます。

○ 埼玉新聞 議会のほうで受け入れが難しいというのはわかるんですけども、一方で財政状況も厳しいわけですよ。今回2億7,700万円を新たに出費をすることになったわけですが、この2億7,700万円分をそのほかでどっかで削るとか、出費を儉約するとか、そういうお考えはあるんでしょうか。

○ 市長 そうですね。執行の中でね、そういったことをもちろん工夫をしていかなくはいけないというふうには思っておりますけれども、当然パイはもうある程度決まっているわけですから、その中でやりくりをしていかなければいけないというふうに思っております。

○ 埼玉新聞 それから、学校警備員の関係なんですけども、先ほど2学期から、できるところからやりたいということで、推進モデル事業として来年度当初から半日体制にしていきたいということでしたけれども、これは今年度から始めるという予定だったわけですよ。それが議会、あるいはPTA等の懸念の声から2学期以降ということになって、先ほどのことを伺いますと、さらに後退して来年度からということととらえてもいいんでしょうか。

○ 市長 来年度からということではなく、今年度から段階的に導入をするということでご理解をいただきたいと思えます。

今回の方向性を決めるに当たってはですね、私自身もPTAの役員の皆さんと意見交換をさせていただきました。それで、地域で子供たちをしっかりと守っていくという方向性については、PTAの役員の皆さんともある程度理解は共有ができたと思っています。ただ、そこに持っていくまでのプロセス、あるいは段階的な導入ということが、やはりどうしても必要だということがPTAの皆さんからお話が出ておりましたので、教育委員会のほうとPTAの皆さん、あるいは学校校長会の皆さんと調整をしていただいて、段階的にやっていこうということになりました。まずは、2学期

は30校ぐらいからスタートできると思いますけれども、やれるところからスタートをさせて、それをどういう状況でやられているのかというのをですね、やっぱりほかの学校にも見ていただきながら理解を深めていくという形も必要だろうということで、そういった形でやらせていただくというふうに思っております。やっぱり地域によって、現状としてまだそういった体制が十分にとれていないという場所もございますので、そういったところにもしっかりと配慮をしながら、やっていくということが必要だと考えて、そういった形にさせていただきました。よろしいでしょうか。

○ 埼玉新聞 学校警備員の関係も敬老祝金と同じで、今年度予算では先に改正を踏まえた予算を組んでいると思うんですけども、この場合新たに推進モデル事業ということになりますので、追加の補正予算をすることになるのでしょうか。

○ 市長 現状としてはですね、内部的に、それぞれ執行したものの予算の差額が出てきているものがありますので、教育委員会の中でそれを一部活用させていただいて、それを使って対応していくということになります。

○日本経済新聞 8 1 A街区についてなんですが、本当にこの事業に関しては、もう何かブラックボックスの中であって、何か私たちからは本当に中がよく見えないような状況だと思うんですけども、7月25日といったらもう本当に間がないんですよ。今もう事業者側からある程度の案が打ち返されてきているのか、もしくはまだ待っている状況なのかというのはどうでしょうか。

○ 市長 事業者側から、打ち返されてはきております。それらについての詰めの作業とか、どういうふうにしていくかということ、また主催者側としての立場も意見もありますし、事業者側の意見もございますので、その辺を踏まえた上で7月25日の前に、決定をしていくということになっています。ちょうどその辺がまだ途中なものですから、もうちょっとお時間をいただければと思います。

○日本経済新聞 見直し案が幾つか出てきているという状況ですか。

○ 市長 そうですね、はい。

○日本経済新聞 それを修正したり、その3者側の希望を反映させようというような状態ということですか。

- 市長 はい。
- 産経新聞 公開審議のことなんですけども、東京事務所が廃止8で、シティーカップも廃止5というふうに結構厳しい意見も出たと思うんですけども、どのように受けとめられているのかとですね、それをどこまで実際に政策として生かしていくのかというのを教えていただけますか。
- 市長 そういった廃止の数が、東京事務所、それからシティーカップという部分で、多かったというようなお話は私も承っておりますけども、それについてどういったご意見の中でそういった結論とかですね、評価になったのかというようなことなども踏まえて、また今後の市としての、見直しなどもね、含めて考えていく中で、その市民からいただいた評価、あるいは考え方というものを十分に取り入れながら、決定していこうというふうに思っています。
- 現時点でのいろんな視点から見て、市民の皆さんから、いただいた評価というのはある意味では、まさに市民の目線でとらえた評価だろうと思えますので、どういった点を変えていくべきなのか、あるいはやはり事業としてなくしていくのかというようなことについては、今後もう少しですね、有識者会議、あるいは2回目になります第2回目の行財政改革公開審議などを経まして、もう少し絞って考えていきたいと思っています。
- 埼玉新聞 さいたま市と同じ日に所沢市のほうでも同じことをやっていて、向こうは事業仕分けでいっていたんですけども、今回やっぱり市民の目線をより入れていくんでしたら、多少中身は違っていても事業仕分けという言葉で銘打ったらよかったんじゃないかなと思うんですが。
- 市長 そうですね。事業仕分けを、その定義の問題いろいろあると思うんですけど、ただ報道では、皆さんさいたま市版事業仕分けみたいな形で報道していただいたと思っていますし、私も説明をするときには、そういった表現を一部使わせていただいたりもしていましたので、大方市民の皆さんにはですね、それに近いものだということ認識していただいた上で参加をいただいているのではないかなと思っていますけど。よろしいでしょうか。
- 埼玉新聞 あと、事業の見直しの審議の内容だったんですけども、さいたまシティーカップとかシティマラソンとか、割とわかりやすいものもあったんですけども、一方で保育とか病院とか、国や県の予算と絡む結構複雑なものも

あって、市民委員の方からちょっとわかりにくいという声もあったんですけども、もう少しわかりやすいテーマを入れたほうがよかったんじゃないかなと思うんですけど、例えば敬老祝金とか学校警備員なんかも入れれば、それは直接の市民の意見を聞くことができたんじゃないでしょうか。

○ 市 長       そうですね。そういう意味では、今回30の事業を選定したわけですけども、その中にやはりちょっと市民の皆さんからすると、特別な行政用語とかですかね、そういったものが出てきてちょっとわかりにくくなってしまったというようなこともあったのかなというふうに、これは反省として持っています。もう少し市民の皆さんから見て、判断しやすい、わかりやすい事業というものを選ぶ必要もあったと思いますし、また説明の仕方でも、やはりちょっと難しい言葉で表現してしまうと、なかなかわかりにくくなってしまったというようなこともあったので、今回初めての経験ということで、職員もそれなりに準備はして臨んだわけですけども、まだまだ市民の皆さんからすると、非常にわかりやすい説明というところまでは、まだいっていない説明もやっぱり幾つかあったなというふうに思っておりますので、これからはやはりそういった市民の皆さんがわかりやすい説明の仕方、あるいは行政情報の出し方も含めてですね、そういったことも反省材料の一つとして残ったなと思っています。

○日本経済新聞   行革の公開審議について、参加した市民からうちの支局に電話がかかってきてまして、実際に我々の意見がちゃんと反映されるのか疑問だというような電話があったんですけども、結果について市民に説明したり、もしくは市民の意見が反映されなかった場合にどんな説明をするとか、そういったことはもう考えられているのでしょうか。

○ 市 長       どういう結論になるかがまだ決まっておりませんので、あれですけども、いずれにせよ、これはどういう形にしろ決まった段階で、きちっと説明責任をですね、果たす必要があると思っていますので、どういう点を、例えば市民の皆さんの評価を入れてこうなったとか、あるいは市民の皆さんの評価はこうだったけれども、こういう点があったので、こうなったとかですね、その辺についてはきちっと説明をする、そういった必要性があると思っていますので、その辺はやりっ放しということにはしないつもりでいます。よろしいでしょうか。

○ 時事通信      その関係なんですけども、その市民委員の方が、身内のやりとりだと、結局は自分らの意見は余り聞いてもらえていないし、話す場もほとんどないというような意見もあったんですけど、そこら辺の改善というか、ただ評価するだけじゃなくて、市民の声を直接入れるとかいったような形をとるやり方とか、考え方とかはどうなんですか。

○ 市長          そうですね。やり方については、今回やったのが100点とは言えないと思っていますので、これから、例えばやっぱり質問をもうちょっとしたかった、市民の皆さんからするとですね。わかりにくい点については、質問を市民からもさせてもらいたかったとか、いろんなご意見もやはり出ていたと思っていますので、その辺については今後改善をしていきたいと思っています。

今回のやり方が全部よかったかということになると、やはり反省すべき点、改善したほうがいい点は、やっぱりいろいろあると思っていますけど、ただ、1つは今回のを通じてですね、やっぱり本来この役所の仕事というのはですね、まさにああいう状況でやっているわけですね。現場の、要するに担当部局があって、それで行革だとか、あるいは財政局があって、それでこちら側にいた市民委員の方があそこに座っていましたけど、本来はいつも市民の目線が仕事の中でもああいうふうに働いているということだと思っんですけども、それがよりリアルにその場にいていただいたということですね、そういう意味で職員からすると、非常に緊張感もあったし、いかにわかりやすく説明をしなくちゃいけないのかということを考えて、ある意味では職員にも非常にいい効果が私は出たと思っていますし、市民の皆さんからも、そういうわかりにくい用語があったり、わかりにくい事業もあったけれども、でも比較的さいたま市がどういうことを考えて、何をやろうとしているのか、この事業はどういうことを目指して何をどういった形でやっているのかということが、やはりこれまで以上にわかりやすかったというようなご意見もあっておりますので、そういった意見なども参考にしながら、次回やるときにはですね、もう少し工夫したり改善をしたりしてやっていくという形に変えていきたいと思っています。よろしいですか。

○ 時事通信      身内のやりとりだけだというような意見があって、国の事業仕分け、第



三者を今回全く入れずに、行革の方とか財政局の方と当該局がやりとりすると。その第三者を入れなかった理由とかというのはあるんですか。

- 市長 今回についてはですね、基本的には事業の内容がやっぱり一番わかっている担当職員と、ある意味ではその行革だとか財政というのは、もちろん同じ職員ではありますけど、でもやっぱり事業の部分というのはちょっと違う立ち位置でそれらを見ているんですよね、ある意味では。ですから第三者だと僕は思っているんです。ただ、もちろん市民の皆さんからすると、もう少し質問ができたり、あるいは自分たちの意見が、一応最後に何人が意見を言ってもらったりはしていますけども、もうちょっと言いたかったとか、そういった部分は当然あるかと思うので、その辺を少し改良していく中でやっていくことで、少し解決ができるかなというふうには思っているんですけどね。よろしいですか。

- テレビ埼玉 ほかに質問ありますでしょうか。

それでは、幹事社質問以外の質問ある社は質問してください。

#### その他

#### 各党のマニフェストについて

- 時事通信 参院選告示されまして、各党マニフェストも出ていますが、市長が一番共感を覚えた党のマニフェストは。

- 市長 共感を覚えた党のマニフェストですか……非常に難しい質問。ある党と全部が一緒だとかということは、基本的にはないですね。ただ、部分的には、ああ、こういうところは同じ考え方だなとか、そういうところはね、それは各党それぞれございます。

- 時事通信 具体的にはどういうところですか。

- 市長 もちろん僕らがずっと言ってきた子ども手当を含めて、あと比較的農家の戸別補償の問題だとかですね、比較的私自身は、その行政の方向性としては、やはり現金を、要するに生活が厳しい方々に対して給付をしていくということは、これは必要があると思っていますけれども、そうじゃない部分について、やはりできるだけサービスという形で提供していくのが僕自身はいいと思っていますので、そういう意味で、部分的に共感できる党の政策というか、あの党のこういったところとかというのはありますけど、

ここではちょっとあえて申し上げないでおきたいと思います。

### 消費税について

○ 産経新聞 参院選の争点に消費税が急浮上してきたと思うんですけども、市長個人の考えは。

○ 市長 そうですね。すぐに導入をするということについては、やはり多少違和感はありますね。やっぱり国として削るべきところをしっかりと削っていくということをやっていくのが、まず第一歩だと思います。

それから、その上でね、やはり非常に財源が不足をしている状況がありますので、今国で行う政策の多くが、いわゆる赤字国債を発行している中でやっていったりするようなものが非常に多いわけですね。これは、やはり財政の健全化をきっちり意識してね、国もそろそろやっていかないと、もう地方は既にそういった取り組みをやっているわけですよね、さまざまな自治体がですね。ですから、そういう意味で、この消費税についてしっかりと議論をしていくということは、ぜひやるべきでありますし、ちゃんといろんな政策を行っていくには、その裏づけたる財源をしっかりと確立をして、そしてやっていただくということが、やっぱり必要じゃないかなというふうに私自身は思っていますので、そういった中で消費税の議論というのは出てこざるを得ないのかなと思いますけど。

○ 産経新聞 その上ですね、2大政党がともにですね、消費税増税を打ち出しているですね、特に菅直人首相が、ある意味突然消費税の議論を持ち出してきた、そのことについてはどのように考えられていますか。

○ 市長 そうですね……タイミングとしては唐突感があるのかもしれませんが、わかりませんがね。菅さんとしては、恐らく参議院後にそういった議論をしていくのに、参議院の前に何も言わないということについて、何も言わないで選挙をやって、終わった後に急にそういった話をするということは、よくないという判断の中で出されたのかなとは思っていますけれども、ただ、ちょうど政権が変わってすぐにね、出された部分もあるので、多少唐突感があるなというふうには私も思っています。

### CO<sub>2</sub>削減埼玉モデル 目標設定型排出量取引制度について

○ 朝日新聞 話は変わるんですが、きのう知事が大規模事業所を対象にしたですね、温室効果ガスの排出量取引の制度を発表したんですけども、その点に対

して市長の評価とか、感想とかというのは。

○ 市 長 現状として、まだちょっとその中身が今把握が十分できていませんので、ちょっとその辺については、もう少し中身について確認できた段階でコメントしたいと思います。よろしいでしょうか。

○ 朝日新聞 改めて聞きます。

#### 参議院議員選挙について

○テレビ埼玉 また参院選の話になるんですけども、上田知事が今回の選挙について注目したポイントとして、民主が過半数とれるかというようなことをおっしゃっていたんですけども、市長としてはどのような争点だと考えていますか。

○ 市 長 これまで参議院については、いわゆる政権についていた党と、ねじれてずっと来ていますよね。そういう意味で、今回衆議院では今民主党がね、圧倒的な多数をとっているわけですけども、この参議院で過半数をとるかどうかというのはですね、これからの政権運営に大きく影響するかと思えますので、一つはやはり過半数をとるかどうか、与党側がですね、過半数をとるかどうかというのは、大きな焦点の一つだというふうには思いますね。

○テレビ埼玉 そのほか争点と見るところというのは。

○ 市 長 そうですね。消費税については、今回はあくまでも消費税について議論をしていきたいと思いますという投げかけであるので、消費税そのものが争点になっているとは思いません。また、自民党、民主党という2大政党がそういった発言をし始めているので、それ自体が争点とは私自身は思っていませんけれども。

○ 埼玉新聞 選挙に絡むんですけども、消費税の問題と絡んでですね、高福祉、高負担の大きな政府か、もしくは小さな政府かということが一つ考え方の論点として上がっている点とですね、あと地方分権と絡んで、各地方自治体が独自の裁量で福祉や医療、教育をやっていけるようにするのか、それとも全国統一的な水準を確保すべきなのかという2つの視点が上がっているんですけども、市長のお考えをお聞かせいただければ。

○ 市 長 私自身は、前者でいいますと、基本的にはやはり、余り過度な負担を国民にかけずに、やはり小さい、余り大きくない、小さい政府という言い方

は変ですけれども、余り行政がやり過ぎることについてはよくないと。要するに今までも言ってきていますけど、自助、共助、公助のバランスがとれた社会がいいと思っていますので、余り高福祉、高負担という形ではない社会ですね。それぞれまず自らの足で立ち、それができないときには地域で支え合い、さらにそれができないときには行政がサポートしていく、そういったあり方がいいと思っています。

それから、もう一つは全国一律的な福祉を実現するのか、地域の実情に合わせた福祉を実現していくかということでもありますけども、これ分野によってももちろん違うと思いますけれども、ただ基本的にはですね、地域によって実情がやっぱり違うところがありますので、基本的には基礎自治体、住民に最も近いところである程度判断をして、福祉や、あるいは教育等をですね、それぞれの地域の裁量をもってできるということが私は重要だと思っていますけれども、もちろん最低レベルのね、生活の保障というか、生活のレベルというものはなきゃいけないと思っていますけれど。

○テレビ埼玉      ほかに質問はありますか。

ないようなので、以上をもちまして記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行      以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

午後2時23分閉会

この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。